

多忙・遠慮で潜在か

避難所「予防的回診を」

東日本大震災の避難所で過ごす就労年代の被災者を診察した医師らが

不眠症患者の数をまとめたところ、

一般の健康診断時の4分の1前後と

いう結果が相次いで出た。医師らは、

極度の緊張を強いられる避難所生活

にしては低すぎる数値で、復旧作業

に追われ診察を受ける余裕がないこ

とや「遠慮」が主因と分析。医師自ら

が進んでケアに当たる「予防的回診」

が大切だと訴えている。【矢島司枝】

16%に上っていた。
ところが、同機構の

医療チームが3月25日

～4月11日、岩手、宮

城両県の15避難所で18

～65歳の計97人を診察

すると、不眠を訴えた

のはわずか4人。国立

国際医療研究センター1

（東京都新宿区）が3

月22日～4月21日、宮

城県東松島市の避難所

で診た20～50代の32

4人も不眠症は3%に

とどまっていた。

独立行政法人「労働者健康福祉機構」（川崎市）が09年4～6月、

1歳の約2600人を調

べた際、不眠症患者は

由を尋ねると、不眠が

続いている「受診する時

間がない」などの回答

が多く、「避難所で眠れ

ないのは仕方ない。医

者への相談は気がひけ

る」と話した人もいた。

◇

労働者健康福祉機構

の医療チームが先月

27、28両日、仙台市若

林区の避難所で行った

回診に同行した。「我

慢するつもりだった」。

「我々は警備の仕事を失

い、ハローワークに通

う毎日。ストレス障害

体に変調を感じながら、気丈に振る舞う被災者の姿が目に焼き付いた。

27日前、約30人が

生活する公共施設の会議室。仕事やがれき撤

去のため、日中は5人

しかいない。無職の佐

藤征一さん（67）は「毎

夜目が覚める。元々血

圧が高かったが、津波

で家を流され、1カ月

以上も降圧剤を飲んで

いない」と打ち明けた。

血压はやはり高く、今

回は薬を処方された。

別の公共施設の会議室

で食事していた男性

（60）は警備の仕事を失

いから我慢して診察を

受けていないのでない

のか。潜在的な病を掘り起こす必要がある」と指摘している。

と診断され、昼寝の勧めを勧められた。小学校に避難中の不眠症の主婦（60）は最高血圧が180以上。「以前は血圧が低く、大丈夫だと思ったんだけど……」

・大阪樟蔭女子大教授（ストレス科学）は「勤

労世代は周囲の期待な

どから我慢して診察を

受けていないのでない

のか。潜在的な病を掘り起こす必要がある」と指摘している。